

(1) 出題方針

英語は例年どおり、長文 2 題（〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕）と会話文 1 題（〔Ⅲ〕）で構成した。長文 2 題は論説文・解説文を中心とした英文を素材とし、会話文 1 題は日常的・実用的な場面での英会話文を素材とした。この 3 題構成により、読解力と表現力を総合的に評価した。

題材の選定にあたっては、論理の展開・語彙・文法・文脈を総合的に読み解くことで解答に至れるよう配慮した。題材は、現代的な話題を中心に、心理学、医学、環境など多岐にわたる分野から採用した。本文は出典の著作権を遵守して原文に基づき、難易度が高すぎると思われる語句や専門的な概念には注を付して、内容に関する専門的な知識がなくても解答できるよう工夫した。

設問形式については、空所補充（前置詞・接続詞・機能語・接続表現）、語義選択（同義語・下線部言い換え）、波線部・慣用表現の言い換え、整序英作文、内容合致選択、英文和訳、和文英訳という多様な形式を組み合わせた。空所補充では、文脈を理解して適切な語句を選ぶ能力と基本的な英文法の知識を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、文脈から意味を判断する能力を問うた。整序英作文問題では、文法・構文の理解力に加え、前後の文脈を正しく把握した上で意味の通る英文を組み立てる力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨を把握した上で該当箇所と照らし合わせる読解力を問うた。選択式設問と記述式設問を組み合わせることで、英語・日本語で表現する力も評価するという構成とした。会話文においては、選択肢数が設問数を上回る形式を採用することで消去法だけでは解答できない構成とし、それぞれの空所に適切な発話を正確に判断する力を問うとともに、和文英訳を加え、英語で表現する力も問う設計とした。

(2) 解答状況および解説

科目計平均点は受験者全体で概ね 127～145 点台、合格者で 149～166 点台の範囲であった。

前置詞・接続詞などの空所補充問題は、例年通り比較的平均点が高かった。語彙問題および言い換え問題は、語彙の知識のみで解答できるものに比べ、文脈から判断する必要があるものは得点が低くなる傾向があった。中でも基本的な語義だけでは対応できず、比喩的・慣用的な意味を文脈に照らして把握することが必要な設問（例：102-ⅡB(c) "bleak"、103-ⅡB(c) "weed out"、104-I B(b) "stepped up"では、全体的に得点が低い水準にとどまる傾向が見られた。

整序英作文問題は、定型表現や基本的な構文の知識を問うものと、文全体の構造と意味を把握した上で判断する必要があるものがある。後者は文法的な構造の理解と文脈からの意味判断の両方を組み合わせる力が求められるため、得点が低い水準にとどまる傾向があった（例：102-I・104-Ⅱ・107-I）。定型表現や基本的な構文の知識を問う問題への対応は比較的できていた（例：106-I）。

内容一致問題は正しいものを 3 つ選ぶ形式であり、概ね本文の流れに沿って選択肢が構成されている。個々の選択肢の照合にとどまらず、本文全体の論旨の展開を正確に把握できているかどうか問われる設問形式であり、全日程を通じて比較的安定した平均点が見られた。

会話文問題は、全体的に比較的高い平均点であった。設定された場面や登場人物の関係を把握し、会話の流れを正確に理解する力が求められる。

英文和訳・和文英訳については、全日程を通じて比較的高い平均点であり、合格者との差も相対的に小さかった。英文和訳では、部分的には訳出できていても全体として意味の通る日本語になっていない解答も見られた。和文英訳では、構文やイディオムの知識を活用して文を組み立てる力が問わ

れており、比較的高い平均点であった。

(3)受験生へのメッセージ

本学の英語入試は、語彙・文法の知識にとどまらず、文脈の中で英語を総合的に運用する力を問うものである。本学での語学教育・教養教育ではその力を土台として思考力とコミュニケーション能力の育成に力を注いでおり、その基盤が入学前に身につけているかどうかを問う試験として位置づけられている。

以下に受験準備のアドバイスを挙げる。

- ①長文問題の読解には集中力と持続力が必要となる。日頃からまとまった量の英文を読み通す練習を積んでおくことが有効である。
- ②過去の入試問題に取り組み、語彙・構文力を培いながら読解力や訳出力を伸ばす。
- ③長文問題の本文は最近の雑誌・新聞・書籍などから抜粋しており、題材は多岐にわたる。普段から時事問題や話題のトピックにも関心を持つようにする。
- ④長文を読む際には、段落のつながりと著者の主張を意識して読む。高校の授業でも学ぶ段落冒頭の主題文（トピックセンテンス）に注目して文意を把握し、段落ごとの関係を意識して読み進める力を身につけておくことが有効である。
- ⑤語彙については、単語の意味を暗記するにとどまらず、多義語・慣用表現・比喩的表現を文脈の中で捉える練習を積むことが重要である。単語の字義通りの意味だけでは対応できない設問が複数含まれており、前後の文脈から意味を推測する練習を積むことが求められる。
- ⑥整序英作文問題への対応としては、文の構造を意識しながら読む習慣が土台となる。文法知識を個別に習得するだけでなく、実際の英文の中で構文を意識して読む練習を積み重ねることが有効である。
- ⑦英文和訳については、構文を正確に把握した上で文脈に沿って正確に訳出する力が求められる。和文英訳については、会話の文脈を正確に理解した上で適切な構文やイディオムを用いて表現する力が問われる。語彙はスペルも含めて正確に習得しておく。なお、英文和訳と和文英訳の解答欄を取り違えて記入するケースが毎年見られる。試験中は解答欄を確認した上で記入するよう注意が必要である。
- ⑧会話文については、日頃から英語の会話表現に幅広く触れ、自然な表現を身につけておくことが有効である。また、個々の発言が会話の流れの中でどのような役割を果たしているかという発言の意図を意識した読み方を習慣づけることが、会話文補充問題への対応力につながる。

英語の総合的な運用能力は、大学での学びを支え、思考を深めるための土台となるものであり、AI 時代においても変わらず求められる力の基盤でもある。英語を学ぶことの意味と面白さを感じながら、着実に歩みを進めてほしい。

◆英語◆ 出題の意図

101	出題の意図
[Ⅰ]	Scientific American(2025年1月28日)掲載の研究論説を素材とした。顔の表情の豊かさが対人場面における好感度や理解可能性の知覚にどのように関わるかについて、心理学的・進化論的観点から論じた英文である。空所補充問題では、文脈に即して適切な語句を選択する力と、基本的な英文法の知識を活用する力を問うた。語義選択問題および言い換え問題では、語彙の知識に加え、多義的または慣用的な表現の意味を文脈の中での的確に把握する力を問うた。整序英作文問題では、文法・構文に関する理解を踏まえ、前後の文脈に即して意味の通る英文を構成する力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨を把握した上で、該当箇所の内容と照合しながら正確に判断する読解力を問うた。英文和訳問題では、英文を正確に理解し、それを適切に日本語で訳出する力を問うた。
[Ⅱ]	The Conversation(2025年2月21日)掲載の科学解説記事を素材とした。激しい運動後に軽い運動を行う「アクティブリカバリー」について、その効果、仕組み、適用される場面および限界を説明した英文である。空所補充問題では、文脈を踏まえて適切な語句を選ぶ力と、関係詞や前置詞などの基本的な文法事項に関する知識を運用する力を問うた。語義選択問題および言い換え問題では、語彙の知識に加え、慣用的・比喩的な表現を本文の流れの中で適切に理解する力を問うた。整序英作文問題では、文法・構文の理解を前提として、前後の内容に整合する英文を組み立てる力を問うた。内容一致問題では、本文の要点と論理展開を把握した上で、各選択肢の内容を本文と照合しながら判断する読解力を問うた。
[Ⅲ]	CharlieとSamが旧作のSF映画の鑑賞後に感想を述べ合う会話文を素材とした。会話完成問題では、会話の流れ、話者の立場、応答の自然さを踏まえて、場面に最も適した発話を選ぶ力を問うた。和文英訳問題では、前後の文脈を踏まえつつ、時の前後関係を表す表現や節構成を適切に用い、日本語の内容を自然な英語の発話として表現する力を問うた。
102	出題の意図
[Ⅰ]	The Guardian(2025年2月24日)掲載のエッセイを素材とした。「特別でありたい」という無意識の欲求が、自己評価、他者との関係、日常の営みの受け止め方にどのような影響を及ぼすかを、筆者自身の経験を通して省察した文章である。空所補充問題では、文脈に即して適切な語句を選ぶ力と基本的な文法力を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、慣用的・比喩的な表現を文脈の中での的確に理解する力を問うた。整序英作文問題では、構文を把握し、前後の流れに合う英文を組み立てる力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨と細部の記述を照合しながら、選択肢を慎重に吟味する読解力を問うた。

〔Ⅱ〕	Big Think(2025 年 2 月 5 日)掲載の解説記事を素材とした。スポーツにおける自信 (self-confidence) の役割について、一般に広く信じられている見方を踏まえつつ、その効果と限界を研究知見に基づいて検討した文章である。空所補充問題では、文脈に応じた適切な語句の選択と基本的な文法・語法の理解を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙力に加え、本文中の論理展開や筆者の主張を正確に読み取る力を問うた。整序英作文問題では、構文理解を踏まえて意味の通る文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、本文の要点を正確に把握し、研究結果や筆者の評価を取り違えずに読む力を問うた。英文和訳問題では、対比構造や what 節のはたらきを正確に捉え、訳出する力を問うた。
〔Ⅲ〕	京都郊外でハイキング中の Alan が Hikaru と出会い、道を尋ねることをきっかけに会話を交わす場面を素材とした。会話完成問題では、発話の内容だけでなく、話題の展開、応答の自然さ、場面に応じた表現の適切さを踏まえて、もっともふさわしい発話を選ぶ力を問うた。和文英訳問題では、時を表す表現を適切に用いながら、比較・相対化の構造と程度を表す言い回しを含む日本語の内容を、自然で無理のない英語として再構成する力を問うた。
103	出題の意図
〔Ⅰ〕	Science News Explores(2024 年 11 月 1 日)掲載の科学解説記事を素材とした。「左脳型・右脳型」という広く流布した通念を取り上げ、その背景にある初期の研究と、その後の脳画像研究の進展によって見直されてきた脳機能観を論じた文章である。空所補充問題では、前後の文脈を踏まえて適切な語を選ぶ力と基本的な文法知識を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、慣用表現・比喩的表現を文脈の中での確に理解する力を問うた。整序英作文問題では、構文の理解と文の論理関係を踏まえて英文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨を把握し、個々の記述を正確に照合する読解力を問うた。英文和訳問題では、too ... to ... の構文を含む英文の意味を正確に捉え、それを自然な日本語として訳出する力を問うた。
〔Ⅱ〕	The Conversation(2025 年 1 月 27 日)掲載の批評的論考を素材とした。自動音声認識や生成 AI に見られる言語的偏りの問題を取り上げ、学習データの偏在、話者属性や言語変種の違い、そして技術利用を取り巻く社会的条件との関わりから論じた文章である。空所補充問題では、文脈に即して適切な語を補う力と基本的な文法知識を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、技術・社会・言語にまたがる専門的または比喩的な表現を文脈の中で理解する力を問うた。整序英作文問題では、文の構造と意味のつながりを把握しながら、論旨に合う英文を組み立てる力を問うた。内容一致問題では、本文の主張と具体例との関係を正確に読み取り、記述の妥当性を判断する力を問うた。
〔Ⅲ〕	電車内で英語の文法書を学習している Hikaru とイギリス人の Alison が、教科書の誤植をきっかけに英語表現や言語の特徴について語り合う会話を素材とした。空所補充問題では、会話の流れや話者の意図を踏まえ、場面に応じた自然な発話を選ぶ力を問うた。和文英訳では、節構造や助動詞を適切に用いながら、日本語の内容を自然な英語として再構成する力を問うた。

104	出題の意図
〔Ⅰ〕	Greater Good Magazine (2025 年 1 月 21 日) 掲載の科学報告記事を素材とした。生後 11~20 か月の乳児が、他者を助ける行動をきわめて早い段階から示すことを、実験の手順と観察結果に基づいて論じた文章である。空所補充問題では、文脈に即して適切な語句を選ぶ力と基本的な英文法の知識を問うた。語義選択および言い換えの問題では、研究報告に見られる学術的・慣用的表現を文脈の中で正確に理解する力を問うた。整序英作文問題では、構文理解に加え、前後の意味関係を踏まえて自然で整った英文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、研究の目的・方法・結果・含意を本文全体からの確に把握する読解力を問うた。
〔Ⅱ〕	The Guardian (2025 年 1 月 27 日) 掲載の心理学的論考を素材とした。幸福や意味という従来の充実観の限界を示しつつ、それに代わる考え方として、多様で変化に富んだ経験から成る「心理的豊かさ (psychological richness)」を提唱した文章である。空所補充問題では、論理の流れに即して適切な語句を選ぶ力と基本的な英文法の知識を問うた。語義選択および言い換えの問題では、心理学的・哲学的文脈で用いられる抽象的・比喩的・慣用的表現を読み解く力を問うた。整序英作文問題では、英文の構造を押さえながら、意味のつながりに合った形で表現を完成させる力を問うた。内容一致問題では、幸福・意味・心理的豊かさの三者の関係を整理し、筆者の主張を正確に捉える読解力を問うた。英文和訳問題では、比喩的表現を含む内容を文脈に即して自然な日本語で表現する力を問うた。
〔Ⅲ〕	Alex と Tom がジムを訪れる場面を素材とした。トレーニング初心者の Tom に対して、経験者の Alex が目標の確認、食事内容、トレーニング頻度、メニューの組み方、回復の重要性などについて段階的に助言していく会話である。会話完成問題では、やり取りの流れと発話の意図を踏まえながら、場面に最も適した発話を選ぶ力を問うた。和文英訳問題では、「筋肉は休息中に育つから、回復はトレーニングと同じくらい大切だ」という内容を、因果関係を適切に表しつつ、同等比較の構文を用いて簡潔で自然な英語で表現する力を問うた。
105	出題の意図
〔Ⅰ〕	New Scientist (2024 年 12 月 14~21 日号) 掲載の記事を素材とした。玩具の種類や遊び方の違いが、子どもの空間認識・実行機能・創造性・社会性などの発達にどのような影響を与えるかを、複数の研究例を通して論じた文章である。空所補充問題では、接続詞・語の結びつき・前置詞句などを、前後の論理関係に即して判断する力を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、本文中での具体的な文脈の中で語や表現の意味を捉える力を問うた。整序英作文問題では、文法・構文の理解を踏まえ、前後の文脈に即して意味の通る英文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、個々の研究例にとどまらず、本文全体の論旨を正確に把握した上で各選択肢と照合する読解力を問うた。

〔Ⅱ〕	Scientific American(2025 年 2 月 18 日)掲載の記事を素材とした。骨折後の早期荷重歩行をめぐる知見の変化と、骨の回復過程を論じた文章である。空所補充問題では、成句的表現・比較構文・前置詞の用法など、文脈に即した語の運用力を問うた。語義選択および言い換え問題では、本文の文脈の中で表現の意味を正確に捉える力を問うた。整序英作文問題では、it 構文を含む文法・構文の理解を踏まえ、前後の文脈に即して意味の通る英文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨を踏まえて該当箇所を読み取る力を問うた。英文和訳問題では、the rate at which ... を含む構造を正確に読み取り、その内容を日本語に訳出する力を問うた。
〔Ⅲ〕	成田空港発の機内で隣席になった Alison と Alan の会話を素材とした。会話の流れや応答関係を踏まえ、場面に応じた適切な発話を選ぶ力を問うた。和文英訳では、「雰囲気をつかめる」という概念を適切な英語表現で言語化する力と、比較表現を用いて主観的印象を英語で表す力を問うた。

106	出題の意図
〔Ⅰ〕	Science Daily(2025 年 2 月 20 日)掲載の記事を素材とした。捕食ロボットを用いた実験によって、幼生期のゼブラフィッシュが捕食者の危険をきわめて短時間で学習し、それに対応する脳活動の仕組みが明らかにされたことを紹介する文章である。空所補充問題では、前置詞・関係副詞などの基本的な文法知識を、文脈の中で適切に運用する力を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙力に加え、実験研究の文脈で用いられる表現を前後関係から正確に捉える力を問うた。整序英作文問題では、in terms of や be able to do などの語法・構文を正しく組み立てる力を問うた。内容一致問題では、研究の目的・方法・結果・意義の流れを本文全体から把握する読解力を問うた。英文和訳問題では、無生物主語を含む enable O to do の構文および could が表す可能性を正確に理解した上で訳出する力を問うた。
〔Ⅱ〕	Philosophy Now(2024/2025 年 12 月・1 月号)掲載の記事を素材とした。サンタクロースを信じさせることの是非を、ethics of belief と子どもの認識的発達の観点から論じた文章である。空所補充問題では前置詞や接続的表現の用法を文脈に即して判断する力を、語義選択および言い換え問題では哲学・倫理的文脈における語句の意味を正確に読み取る力を問うた。整序英作文問題では more like ... than ... などの表現の運用力を、内容一致問題では単純な賛否にとどまらず子どもの認識形成との関係まで含めた論旨を本文全体に即して把握する読解力を問うた。
〔Ⅲ〕	カンボジア旅行中の Linda と Brad が、アンコール・ワット観光を前にカメラの使い方や写真の構図について語り合う会話を素材とした。会話補充問題では、話題の展開、応答の自然さ、指示語や具体例のつながりを踏まえて、場面にふさわしい発話を選ぶ力を問うた。和文英訳では、強調を用いた比較表現の運用と、「使いにくい」を適切な英語で表現する力を問うた。

107	出題の意図
〔Ⅰ〕	Psychology Today(2025 年 3 月 12 日)掲載の記事を素材とした。時間という限られた資源をいかに主体的に使うかという問題を、「追加(addition)」「削減(subtraction)」「置き換え(substitution)」という三つの観点から論じた文章である。空所補充問題では前置詞や談話標識の運用力を、語義選択および言い換え問題では抽象的・比喩的な意味を文脈の中で捉える力を問うた。整序英作文問題では、慣用表現や関係詞節を含む構文の理解を踏まえ、前後の文脈に即して意味の通る英文を完成させる力を問うた。内容一致問題では、本文全体の論旨と三つの方策の違いを正確に把握した上で細部を読み取る力を問うた。英文和訳問題では、構文的に複雑な英文を正確に理解し訳出する力を問うた。
〔Ⅱ〕	Euronews(2025 年 2 月 25 日)掲載の記事を素材とした。ヴェネツィアを含む沿岸水域におけるプラスチック汚染の深刻さを示した上で、マエルストロム・プロジェクトによる海中ごみの把握・除去技術、およびポルトガルでの気泡バリアの試みを紹介した文章である。空所補充問題では、come in のような慣用表現、因果関係を示す表現、関係副詞 where を含む構造などを文脈の中で適切に判断する力を問うた。語義選択および言い換え問題では、語彙の知識に加え、文脈の中で表現の意味を正確に絞り込む力を問うた。整序英作文問題では、Only then can we … に見られる倒置や関係副詞節等を含む構文を正確に構成する力を問うた。内容一致問題では、技術的除去の有効性を紹介しつつも、記事全体が最終的には発生源対策の重要性へと議論を進めていることを踏まえ、論旨の流れを的確に追う読解力を問うた。
〔Ⅲ〕	日本旅行から帰国した Alison が父親の Peter と電話で会話を交わす場面を素材とした。前半では日本のオーバーツーリズムをめぐる感想、後半では帰国便で出会った男性の話へと話題が移っており、設問では会話の流れ、話者の心情、人物関係、話題転換の自然さを踏まえて適切な発話を選ぶ力を問うた。和文英訳では、基本的な構文を用いる力に加え、日本語の感謝・安堵の表現を英語として適切に解釈し表現する力を問うた。